



ザッパラス オフィス

## 最新オールフラッシュ・ストレージとAIを活用した運用支援サービスを導入、運用負荷を軽減し、安定したサービス提供基盤を構築

占いコンテンツを中心としたさまざまなエンターテインメントを国内外に提供する株式会社ザッパラス(以下、ザッパラス)は、IBMの最新オールフラッシュ・ストレージ、IBM Storwize V5030Eを導入しました。ストレージのプロトコルをiSCSIに統一し、IPネットワークによるSANを構築することで運用をシンプルにして運用負荷を軽減しました。さらに、SaaSで提供するAIを活用した運用支援サービス、IBM Storage Insightsを採用することで、ストレージの監視や分析を効率化し、誰でも直感的な操作によって最適な状態でストレージを運用できる体制を確立しました。

**【導入製品・サービス】** ● IBM Storwize V5030E ● IBM Storage Insights



### 課題

- ピーク時でも安定したサービスを提供し続けるためのシステム環境や仕組みの構築
- 接続形態の異なる複数のストレージで複雑化した運用管理のシンプル化
- 別々に運用していた本番・開発・バックアップ環境を1つに統合できる高い処理能力を持ったストレージの導入

### ソリューション

- HDDストレージにかわり、オールフラッシュ・ストレージ「IBM Storwize V5030E」を導入
- AIによる運用支援SaaSサービス「IBM Storage Insights」を活用

### 効果

- システム性能面での余力がでて、ユーザーを待たせることが減少
- ストレージのプロトコルをiSCSIに統一したことで運用の柔軟性が飛躍的に向上
- IBM Storage InsightsのAIによるアドバイスによって、ストレージ環境の最適化、運用管理負荷の軽減を実現

## 【お客様課題】

### ストレージの接続形態が異なり 運用が複雑で負荷が増大していた

ザッパラスでは、動画配信サービスを中心とした古いコンテンツの企画制作、開発、運営および古いフェスなどのイベントの運営、AR(拡張現実)やVR(仮想現実)事業などを展開しています。米国でも古いメディアを運営しており、国内外で数多くのお客様に古いコンテンツを提供しています。

同社の強みは多岐にわたる古いをロジック化し、お客様のニーズに合わせて柔軟にカスタマイズし、短期間で提供できることです。「コンテンツ事業を支えるITインフラに求められるのは、停止することなくスムーズにサービスを提供することです」と同社 管理PJ インフラユニット リーダーの清水 伸彦氏は話します。

しかし、課題もありました。同社では、その都度、性能とコストの面から最適なストレージを選定してきたために、接続形態にiSCSIを使ったオールフラッシュ・ストレージと、ファイバー・チャネル接続を使ったHDDストレージが併存し、運用管理が複雑になっていました。

「本番環境は2つのストレージで100TB規模の環境になっていましたが、サーバーごとに異なるストレージへ接続されていました。基本的に使い分けることなく運用していたこともあって、全体として運用効率が悪くなっていました」(清水氏)。

そこに7年前に導入したHDDストレージの保守期限切れの時期が訪れました。「リプレースするタイミングで、接続形態をオールフラッシュ・ストレージのiSCSIに統一して運用形態をシンプルにしたいと考えました」と清水氏は話します。

同時に、それまで別々に運用してきた本番環境、開発環境、バックアップ環境も1つにまとめたいと考えました。「必要な性能を算出した結果、かなり高い処理性能を確保することがもう1つの条件になりました」(清水氏)。

そこで同社では、2019年1月に、iSCSIが使えるオールフラッシュ・ストレージであり、業務要件に求められる高い処理性能を提供することを前提にベンダー5社に概算見積もりを求めました。HDDストレージの保守期限切れは6月末に迫っていました。

## 【ソリューション】

### 当初の導入予定時期を延ばしてまで 最新のIBM Storwizeを導入

新ストレージの導入にあたって提案を求められた5社のうちの1社が兼松エレクトロニクス株式会社(以下、兼松エレクトロニクス)でした。それまでもザッパラスに対して、何度か提案を行っていましたが、取引までには至っていませんでした。

「新規で取引するための数少ないチャンスだったので、良いご提案がしたいと思っていました」と語るのは、足繁く、ザッパラスに通っていた兼松エレクトロニクス 第一ソリューション営業本部 第二営業部 第一課の安保 政亮氏です。それまで安保氏はIBMストレージの提案実績がなく、当初は他社製品も一緒に提案していました。

清水氏は「当初提案してもらったIBM製品は、オールフラッシュ・ストレージとHDDストレージのハイブリッド構成で、性能面では物足りませんでした」と振り返ります。价格的にオールフラッシュ・ストレージだけの構成では難しく、ハイブリッド構成になっていたのです。

その状況を一変させたのは、IBM Storwizeシリーズの最新モデル「IBM Storwize V5030E」の登場でした。価格性能比が大幅に向上した最新モデルであればオールフラッシュ・ストレージでも十分に価格が見合います。「IBMからも『同行して説明します』という申し出があって、提案し直すことにしました」と安保氏は話します。

最新モデルを提案することは、これまでの実績がない兼松エレクトロニクスにとっては、課題となりました。兼松エレクトロニクス 第一ソリューション営業本部 第二営業部 第一課 課長

プロトコルが統一されたことでサーバー・ストレージ間がシームレスになり、300以上の仮想マシンもスムーズに移動できました。



株式会社ザッパラス  
管理PJインフラユニット  
リーダー  
清水 伸彦氏

通常、当社は新製品を扱う際は時間をかけて十分な評価を行います。が、IBM製品の長期にわたる実績と信頼により、早い判断を引き出すことができました。



兼松エレクトロニクス株式会社  
第一ソリューション営業本部  
第二営業部 第一課  
課長  
村上 弘一氏

の村上 弘一氏は「通常、当社は新製品を扱う際は時間をかけて十分な評価を行います、IBM製品の長期にわたる実績と信頼により、早い判断を引き出すことができました」と課題をクリアした経緯を語ります。

さらに大きな問題として残ったのが、「納期」でした。2019年4月に発表された最新モデルの出荷予定は6月末。構築期間を考えると6月末のHDDストレージの保守期限切れのタイミングでの入れ替えは不可能です。それでも安部氏はIBMの担当者とともに清水氏を訪れて提案しました。「提案内容は素晴らしいものでした。他社と同じ価格レンジの製品と比較すると性能面では突出しており、費用対効果は抜群でした。IBMの説明も納得がいくもので、納期を考慮しても導入したいと思いました」と清水氏。安部氏は「IBMが用意した説明資料はわかりやすく、数字だけでなく、グラフや構成図も豊富ですが百戦錬磨であり、こうしたビジネスパートナーの支援体制に安心感を覚えました」と語ります。提案内容が高く評価されて、IBM Storwize V5030Eの導入が決定しました。

## 【効果/将来の展望】

### 最新のストレージとAIの支援で 管理負荷が大幅に削減できた

IBM Storwize V5030Eの導入が正式に決定したのは、2019年6月初めのことでした。同月末にはHDDストレージが保守期限切れになります。清水氏は「新しいストレージが到着するまでの期間を乗り切るために、残っているリソースをフル活用しました。使用率は90%以上にまで上がり、ヒヤヒヤする毎日でした」と語ります。

そして7月中旬。待ちに待ったIBM Storwize V5030Eが搬入されました。兼松エレクトロニクスの技術支援サービスを利用して特急進行で構築作業が進められ、IBM Storwize V5030EのGUIが操作性も直感的であるところから従来実績よりも早期に稼働を開始し、データ移行は1週間で完了しました。

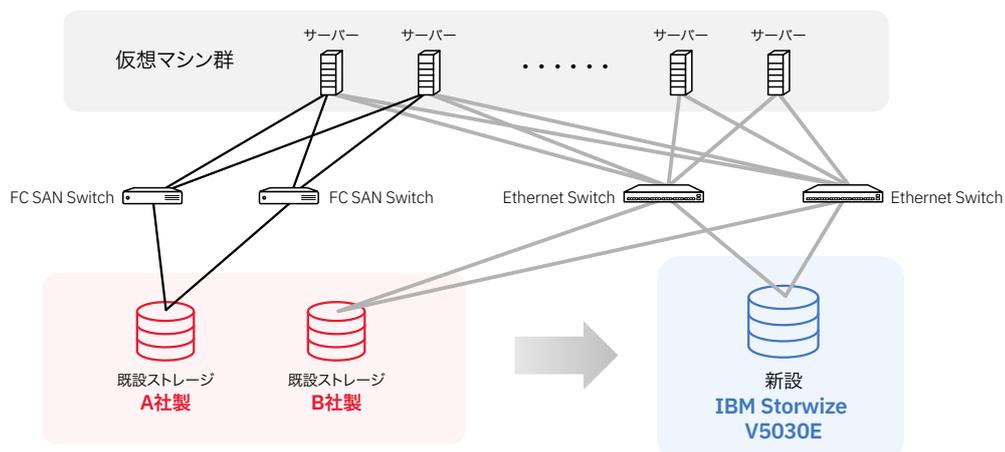
「待った甲斐がありました。まったく問題はありません。プロトコルが統一されたことでサーバー・ストレージ間がシームレスになり、300以上の仮想マシンもスムーズに移動できました。性能面でも余力が出て、ユーザーを待たせたりすることがなくなりました。協力してくれた皆さんには感謝しかありません」(清水氏)。

IBMが用意した説明資料はわかりやすく、数字だけでなく、グラフや構成図も豊富ですが百戦錬磨であり、こうしたビジネスパートナーの支援体制に安心感を覚えました。



兼松エレクトロニクス株式会社  
第一ソリューション営業本部  
第二営業部 第一課  
安部 政亮氏

## ストレージ運用体制イメージ





左から村上氏、清水氏、安保氏

さらに運用負荷の軽減に貢献しているのが、AIによる運用支援サービスであるIBM Storage Insightsの存在です。クラウド上のSaaSサービスとして提供され、グローバルで収集したシステム稼働状況をもとに、予防保全のための情報提供などを自動的に行うことで、ストレージの監視や安定運用を効率化します。

「わかりやすい管理画面とともに、ファームウェアの更新など気づかないところを自動的に指摘してくれるので、運用管理が楽になって、誰でもできるようになりました」と清水氏。3名という少ないメンバーでITインフラを管理する会社にとって、AIが力強い味方になっているようです。

清水氏は「今回、ストレージ環境が整ったことで、今後はネットワークも含めた運用全般の改善を進めることができます。クラウド連携についても検討を進めています。その領域でも兼松エレクトロニクスとオンプレミス・ストレージとクラウドを連携させるハイブリッド・クラウドをリードしているIBMに期待しています」と今後の展望を語ります。



## 株式会社ザッパラス

〒107-6223 東京都港区赤坂九丁目7番1号 ミッドタウン・タワー23階  
<https://www.zappallas.com/>

古いコンテンツを中心に、動画、イベント、AR/VR事業などを展開するエンターテインメント企業。2000年設立。2005年には東京証券取引所マザーズに上場、2009年には東京証券取引所第一部へ市場変更。米国でもコンテンツ配信を行うなど、幅広く事業を展開しています。



## 兼松エレクトロニクス株式会社

〒104-8338 東京都中央区京橋2-13-10  
<http://www.kel.co.jp/>

1968年の創業以来、ITを基盤に企業情報システムの設計・構築、運用サービスおよびシステムコンサルティングとITシステム製品およびソフトウェアの販売、賃貸・リース、保守および開発・製造、労働者派遣事業を展開。



©Copyright IBM Japan, Ltd. 2019

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

このカタログの情報は2019年12月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。記載の事例は特定のお客様に関するものであり、全ての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。効果はお客様の環境その他の要因によって異なります。製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。IBM、IBMロゴ、ibm.com、およびStorwizeは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBM商標リストについては[www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml)をご覧ください。